

Express5800シリーズ用に用意されているソフトウェアについて説明します。

添付のCD-ROMについて(→142ページ)	本体に添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」に 収められているソフトウェアについて紹介しま す。
EXPRESSBUILDER(→143ページ)	セットアップツール「EXPRESSBUILDER」につ いて説明します。
ExpressPicnic (→148ページ)	シームレスセットアップ用パラメータディスク (セットアップパラメータFD)を作成するツール 「ExpressPicnic」について説明します。
Express本体用バンドルソフトウェア(→155ページ)…	本体にインストールするパンドルソフトウェアに ついて説明します。
管理PC用バンドルソフトウェア(→168ページ)	本体を監視・管理するための管理PCにインス トールするバンドルソフトウェアについて説明し ます。
ディスクアレイソフトウェア(→169ページ)	 ホプションのディスクアレイコントローラボード に格納されているコンフィグレーションユーティ リティや管理PCから運用・管理・保守をするこ とができるソフトウェアについて説明していま す。

添付のCD-ROMについて

重要

ヒント

添付のCD-ROMFEXPRESSBUILDER[™]」には、本体を容易にセットアップするためのユーティリティや各 種バンドルソフトウェアが収録されています。これらのソフトウェアを活用することにより、システムの 機能をより多く引き出すことができます。

CD-ROM[EXPRESSBUILDER]は、本体の設定が完了した後でも、OSの再インストー

ルやBIOSのアップデートなどで使用される機会があります。なくさないように大切に保存



ビルド・トゥ・オーダで購入した装置のハードディスクには電源管理をする次のユーティリ ティがインストールされている場合があります。それぞれのページを参照してセットアップ をしてください(これらのユーティリティはEXPRESSBUILDERの中には含まれていません)。

- ESMPRO/UPSController Ver. 2.1 (163ページ参照)
- PowerChute *plus* Ver. 5.11J/5.2J (166ページ参照)

EXPRESSBUILDER

「EXPRESSBUILDER」は、Express5800シリーズに接続されたハードウェアを自動検出して処理を進める セットアップ用統合ソフトウェアです。EXPRESSBUILDERを使ったセットアップの際にはハードウェア の構成を運用時と同じ状態にしてください。

起動メニューについて

EXPRESSBUILDERには2つの起動方法があります。起動方法によって表示されるメニュー や項目が異なります。

EXPRESSBUILDER CD-ROMからブート(起動)する

EXPRESSBUILDERを本体のCD-ROMドラ イブにセットして起動し、CD-ROM内のシス テムから起動する方法です。この方法で本体 を起動すると右に示す「EXPRESSBUILDER トップメニュー」が表示されます。

このメニューにある項目からシステムをセッ トアップします。

★体以外のコンピュータおよび EXPRESSBUILDERが添付されてい た本体以外のExpress5800シリー ズに使用しないでください。故障の原 因となります。



EXPRESSBUILDERトップメニューについてはこの後の「EXPRESSBUILDERトップメ ニュー」を参照してください。

● Windowsが起動した後にEXPRESSBUILDERをセットする

Windows 95/98/MeまたはWindows XP/ 2000、Windows NT 4.0が起動した後に、 EXPRESSBUILDERをCD-ROMドライブに セットするとメニューが表示されます(右図 参照)。表示されたメニューダイアログボッ クスは「マスターコントロールメニュー」と呼 びます。

マスターコントロールメニューについてはこ の後の「マスターコントロールメニュー」を参 照してください。



EXPRESSBUILDERトップメニュー

EXPRESSBUILDERトップメニューはハードウェアのセットアップおよびOS(オペレーティ ングシステム)のセットアップとインストールをするときに使用します。

起 動

次の手順に従ってEXPRESSBUILDERトップメニューを起動します。

- 1. 周辺装置、本体の順に電源をONにする。
- 2. 本体のCD-ROMドライブへCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をセットする。
- CD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す)か、電源を OFF/ONしてシステムを再起動する。

CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

EXPRESSBUILDERが起動すると、以下のようなEXPRESSBUILDEトップメニューが現れ ます。



シームレスセットアップ

「シームレスセットアップ」は本体を再セットアップするときに選択するメニューです。メ ニューを選択後、いくつかの設定項目を選択するだけで切れ目なく(シームレス で)、オペ レーティングシステムのセットアップを行います。

∎ €	•	このメニューを使用するときは、ディスプレイ装置以外の周辺機器を接続しないでくだ さい。また、内蔵のハードディスクも購入時の状態(台数・接続)にしておいてください。
	•	「シームレスセットアップ」は最初からのセットアップであることを前提としているため、実行するとハードディスクの内容が失われることがあります。

セットアップを開始したら、指示があるまでセットアップパラメータFDを取り出さないでください。

ツールメニュー

ツールメニューは、EXPRESSBUILDER に収められている各種ユーティリティを 個別で起動し、オペレータが手動でセッ トアップを行います。より詳細に設定し たい場合などに使用してください。ま た、システム診断やサポートディスクの 作成を行う場合も、ツールメニューを使 用します。次にツールメニューにある項 目について説明します。

Express5800シリーズ EXPRESSBUILDER Ver3.xxx-x Copyright(C) NEC Corporation 2002				
ツールメニュー	RAIDコントローラ:検出			
RAID情報のセーブ/リストア				
システム診断 サポートディスクの作成				
各種BIOS/FW のアップデート システム情報の管理				
ヘルプトップメニューに戻る				

● RAID情報のセーブ/リストア

このメニューはディスクミラーリングコントローラが接続されているとき表示されます。 ディスクアレイシステムのRAID情報をフロッピーディスクに保存または、フロッピー ディスクから復元することができます。

- RAID情報のセーブ

フロッピーディスクにRAID情報を保存します。フォーマット済みのフロッピーディ スクを用意してください。

- RAID情報のリストア

フロッピーディスクからRAID情報を復元します。「コンフィグレーション情報のセー ブ」で作成したフロッピーディスクを用意してください。

システム診断

本体上で各種テストを実行し、本体の機能および本体と拡張ボードなどとの接続を検査 します。システム診断を実行すると、本体に応じてシステムチェック用プログラムが起 動されます。186ページを参照してシステムチェック用プログラムを操作してくださ い。

● サポートディスクの作成

サポートディスクの作成では、EXPRESSBUILDER内のユーティリティをフロッピー ディスクから起動するための起動用サポートディスクを作成します。なお、画面に表示 されたタイトルをフロッピーディスクのラベルへ書き込んでおくと、後々の管理が容易 です。

サポートディスクを作成するためのフロッピーディスクはお客様でご用意ください。

Windows XP OEM-DISK for EXPRESSBUILDER

Windows XP Professionalをインストールするときに必要となるサポートディスク を作成します(「シームレスセットアップ」でインストールする場合は必要ありません)。

- Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER

Windows 2000のシステムを修復するとき(「RDISK.EXE」を使った修復作業です)に 必要となるサポートディスクです。

- ROM-DOS起動ディスク

ROM-DOSシステムの起動用サポートディスクを作成します。

● 各種BIOS/FWのアップデート

インターネットの「NEC 8番街」で配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」 を使用して、システムのBIOS/FW(ファームウェア)をアップデートすることができま す。「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」については、次のホームページに詳しい 説明があります。

[NEC 8番街]: http://nec8.com

各種BIOS/FWのアップデートを行う手順は配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」に含まれる「README.TXT」に記載されています。記載内容を確認した上で、 記載内容に従ってアップデートを行ってください。「README.TXT」はWindows NTの メモ帳などで読むことができます。



BIOS/FWのアップデートプログラムの動作中は本体の電源をOFFにしないでくださ い。アップデート作業が途中で中断されるとシステムが起動できなくなります。

● システム情報の管理

お客様の装置固有の情報や設定のバックアップ(退避)をします。バックアップをしてお かないと、ボードの修理や交換の際に装置固有の情報や設定を復旧できなくなります。



システム情報のバックアップの方法については、26ページで説明しています。なお、リ ストア(復旧)は操作を熟知した保守員以外は行わないでください。

• ヘルプ

EXPRESSBUILDERの各種機能に関する説明を表示します。

トップメニューに戻る

EXPRESSBUILDERトップメニューを表示します。

マスターコントロールメニュー

Windows 95/98/Me、またはWindows XP/ 2000、Windows NT 4.0が動作しているコン ピュータ上で添付のCD-ROM [EXPRESSBUILDER]をセットすると、「マス ターコントロールメニュー」が自動的に起動しま す。





システムの状態によっては自動的に起動し ない場合があります。そのような場合は、 CD-ROM上の次のファイルをエクスプ ローラ等から実行してください。

¥MC¥1ST.EXE

マスターコントロールメニューからは、Windows 95/98/Me、Windows XP/2000、 Windows NTで動作する各種バンドルソフトウェアのインストールやオンラインドキュメン トを参照することができます。



オンラインドキュメントはHTML文書で記述されています。オンラインドキュメントを参照 する前に、あらかじめご使用のオペレーティングシステムへHTMLブラウザをインストール しておいてください。また、HTML文書がブラウザに正しく関連付けられていないとファイ ルが開けないときがあります。そのようなときは212ページを参照して関連付けを再設定し てください。

オンラインドキュメントの中には、PDF形式の文書で提供されているものもあります。このファイルを参照するには、あらかじめAdobeシステムズ社製のAcrobat Readerがインストールされている必要があります。Acrobat Reader がインストールされていないときは、はじめに[ソフトウェアのセットアップ]の[Acrobat Reader]を選択して、Acrobat Reader をインストールしておいてください。

マスターコントロールメニューの操作は、ウィンドウに表示されているそれぞれの項目をク リックするか、右クリックして現れるポップアップメニューを使用してください。また、一 部のメニュー項目は、メニューが動作しているシステム・権限で実行できないとき、グレイ アウト表示され選択できません。適切なシステム・権限で実行してください。



CD-ROMをドライブから取り出す前に、マスターコントロールメニューおよびメニューから起動されたオンラインドキュメント、各種ツールは終了させておいてください。

ExpressPicnic

「ExpressPicnic[®]」は、本体のセットアップで使用する「セットアップパラメータFD」を作成するツールです。

EXPRESSBUILDERとExpressPicnicで作成したセットアップパラメータFDを使ってセットアップをする と、いくつかの確認のためのキー入力を除きOSのインストールやセットアップを自動で行えます。また、 再インストールのときに前回と同じ設定でインストールすることができます。「セットアップパラメータ FD」を作成して、EXPRESSBUILDERからセットアップすることをお勧めします。



「セットアップパラメータFD」がなくてもWindows XPまたはWindows 2000をインストール することはできます。また、「セットアップパラメータFD」は、EXPRESSBUILDERを使っ たセットアップの途中で修正・作成することもできます。

ExpressPicnicのインストール

セットアップパラメータFDを作成するためにWindows 2000/XPまたはWindows NT 3.51 以降、Windows 95/98/Meで動作しているコンピュータにExpressPicnicをインストール します。



ExpressPicnicはPC98-NXシリーズ・PC-9800シリーズ・PC-AT互換機で動作します。

Windows 2000/XP · Windows NT 4.0 · Windows 95/98/Me

Windows 2000/XP、またはWindows NT 4.0、Windows 95/98/Meで動作しているコン ピュータの場合は次の手順でインストールします。



お使いになっているモデルによって画面に表示される内容が多少異なることがありますが、 同じ手順でセットアップすることができます。

- 1. OSを起動する。
- 2. 添付のCD-ROM[EXPRESSBUILDER]をドライブにセットする。

マスターコントロールメニューが表示されます。

3. 画面上で右クリックするか、[ソフトウェ アのセットアップ]を左クリックする。

メニューが表示されます。

[ExpressPicnic]をクリックする。
 セットアップウィザードが起動します。



メッセージに従ってインストールを続け てください。





[ユーザの情報]ダイアログボックスの [シリアル番号]を入力する必要はあり ません。

インストールを完了したら[終了]をク リックし、「セットアップパラメータFD の作成」に進んでください。



Windows NT 3.51

Windows NT 3.51で動作しているコンピュータの場合は次の手順でインストールします。

- 1. Windows NT 3.51を起動する。
- 2. 添付のCD-ROM 「EXPRESSBUILDER」をコンピュータのドライブにセットする。
- 3. ファイルマネージャまたはコマンドプロンプトから、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」の 「¥WINNT¥PICNIC¥SETUP¥SETUP.EXE」を実行する。

セットアップウィザードが起動します。メッセージに従ってインストールを続けてください。インストールを完了したら、「セットアップパラメータFDの作成」に進んでください。

セットアップパラメータFDの作成

OSをインストールするために必要なセットアップ情報を設定し、「セットアップパラメータ FD」を作成します。以下の手順に従ってください。

	.
l	ヒント

手順の中では、Trekkingコマンドをインストールしたときに指定したフォルダ名を 「ExpressPicnic」と仮定しています。

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる。

<Windows XP・Windows 2000・Windows NT 4.0・Windows 95/98/Meの場合>

スタートメニューから[プログラム]ー [ExpressPicnic]ー[Trekking]ー [Windows 2000]をクリックする。

<Windows NT 3.51の場合>

プログラムマネージャの [ExpressPicnic]グループから [Trekking]アイコンをダブルクリックする。

フリーフケース Nindows Update Office ドキュントの新規作成 ついたまたりままり	UU 8 9 A	うアクセザリ テーム Internet Explorer Outlook Express Windows Media Player	+	
 ○ Office ドキュメクトを招い □ プログラム(P) □ 最近使ったファ(ル(D) ③ 設定(S) ③ 検索(D) ④ ペルフ*(H) ○ ペルフ*(H) ○ ファ(ル名を指定して実行(B) > 	•	ExpressPicnic		Trekking_Windows2000
 ● 既定のロゲオフ(U) ● Windows の終了(U) ● 取スタート 	J	-		_

2. [ファイル]メニューの[情報ファイルの新 規作成]をクリックする。

[ディスクの設定]ダイアログボックスが 表示されます。

Trekking			_
情報ファイルの新規作成(N) Ctrl 特部ファイル修正(O) Ctrl	+N		
5:1-刷(P) Ctrl 印刷7%ビュー(V) 7%ンタの設定(P)	+P		
アフリケーションの終了 😒	2000	WindowsXP	
	ALL MAN	A AR AR	
		R.	六甲山牧場
	(C)NEC S	ystem Technologies,Ltd.,NEO	C Corporation 2002
新規セットアッフや情報ファイルを作成			NUM

3. 各項目を設定し、[OK]をクリックする。

[NEC 基本情報]ダイアログボックスな ど、セットアップ情報を設定するダイア ログボックスが順に表示されます。

ディスクの設定	×
OS種別 Windows2000 Professional 🔽	OK
ディスクの設定	キャンセル
T ArrayDisk	01.7°
■ RAIDの新規作成	
接続ディスクのトータル数	
パックを構成するディスク数	
パックを構成するRAID Raid5 💌	
ライトモード ◎ 自動設定 ○ 手動設定	

メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、[次へ]をクリックする。



[キャンセル]をクリックすると入力し た内容が消えてしまいます。

セットアップ情報の設定が完了すると、 [ファイル指定]ダイアログボックスが表示されます。



- [セットアップパラメータFD]チェック ボックスをオンになっていることを確認 し、[ファイル名]ボックスにセットアッ プ情報のファイル名を入力する。
- 1.44MBでフォーマット済のフロッピー ディスクをフロッピーディスクドライブ にセットし、[OK]をクリックする。

ヒント



▲ ソフトウェア編

「セットアップパラメータFD」が作成できました。「セットアップパラメータFD」はオペレー ティングシステムをインストールするときに使用します。ラベルを貼り大切に保管してくだ さい。

- 各項目の設定内容についてはヘルプを参照してください。
- 既存の情報ファイル(セットアップパラメータFD)を修正する場合は、ExpressPicnic ウィンドウの[情報ファイル修正]をクリックしてください。ヘルプを参照して情報ファ イルを修正してください。

追加アプリケーションのインストール

EXPRESSBUILDER CD-ROMでサポートしていないアプリケーションを追加でインストー ルする場合は、以下の手順に従って「セットアップパラメータFD」を作成してください。



追加でインストールするアプリケーションは、シームレスセットアップ対応されている必要 があります。

ディスクの設定 OS種別

ディスクの設定

🗖 ArrayDisk

■ RAIDの新規作成 → 接続ディスクのトータル数

パックを構成するディスク数 パックを構成するRAID

ライトモード 💿 自動設定

- 1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる(150ページ参照)。
- 2. [ファイル]メニューの[情報ファイルの新 規作成]をクリックする。

[ディスクの設定]ダイアログボックスが 表示されます。



Windows NT4.0 Server/Server E.E.

OK

キャンヤル

^⊮7°

~

- 各項目を設定し、[OK]をクリックする。
 [基本情報]ダイアログボックスなど、 セットアップ情報を設定するダイアログ ボックス順に表示されます。
- メッセージに従ってダイアログボックス の各項目を設定し、[次へ]をクリックす る。



[キャンセル]をクリックすると入力し た内容が消えてしまいます。

- 5. [アプリケーションの設定画面]が表示されたら、[追加アプリケーションのインストール]にチェックを入れる。
- [ファイル指定]ダイアログボックスが表示されたら、[セットアップパラメータFD]チェックボックスがオンになっていることを確認し、[ファイル名]ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。
- 1.44MBでフォーマット済みのフロッ ピーディスクをフロッピーディスクドラ イブにセットし、[OK]をクリックす る。

🔲 Global Array	Manager	詳細設定	
ArrayRecove	e Plus eryTool		
□ 自動クリーンア	マップツール	, 	
▶ エクスプレス辿	鰊服サービス		
ユーザ/グループ	登録	1	
クルーフの作成 ユーザ作成	設定		
Update媒体の適	用		
八谷里記憶装直	HUEM-FUOJIE	H1	

オプションの大容量記憶装置ドライバのインストール

シームレスセットアップに対応しているオプションの大容量記憶装置ドライバをインストー ルする場合は、以下の手順に従って「セットアップパラメータFD」を作成してください。



Windows XPでは本機能はサポートしていません。

- 1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる(150ページ参照)。
- 2. [ファイル]メニューの[情報ファイルの新 規作成]をクリックする。

[ディスクの設定]ダイアログボックスが 表示されます。



- 各項目を設定し、[OK]をクリックする。
 [基本情報]ダイアログボックスなど、 セットアップ情報を設定するダイアログ ボックスが順に表示されます。
- メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、[次へ]をクリックする。



[キャンセル]をクリックすると入力し た内容が消えてしまいます。

- [アプリケーションの設定]が表示されたら、[大容量記憶装置用OEM-FDの適用] にチェックを入れる。
- [ファイル指定]ダイアログボックスが表示されたら、[セットアップパラメータFD]チェックボックスがオンになっていることを確認し、[ファイル名]ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。
- 1.44MBでフォーマット済みのフロッ ピーディスクをフロッピーディスクドラ イブにセットし、[OK] をクリックする。



🔲 Global Array Manager	詳細設定
Power Console Plus	詳細設定
☐ ArrayRecoveryTool	
□ 自動クリーンアップツール	
🔽 エクスプレス通報サービス	
ユーザ/グルーブ登録	
グルーブの作成 設定 ユーザ作成 設定	
「大容量記憶装置用OEM-FDの違	師用

コンピュータからの情報採取

起動しているマシンのセットアップ情報を自動的に採取し、セットアップ情報ファイルを作成します(Windows XPは未サポート)。



- 1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる(150ページ参照)。
- 2. [オプション]メニューの[現稼動機からの情報採取]をクリックする。

取得後は、確認/修正画面に移ります。初期値が、取得したデータになっていることを除けば「情報ファイルの新規作成」あるいは「情報ファイル修正」と同じです。

大量インストール

ベースとなるセットアップ情報ファイルを指定し、マシンごとに変更する必要のあるパラ メータのみ修正して、複数のセットアップ情報ファイルを作成します(Windows XPは未サ ポート)。

- 1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる(150ページ参照)。
- 2. [オプション]メニューの[大量インストールのアシスト]をクリックする。
- [ファイルを開く]画面でベースとなるセットアップ情報ファイルを選択する。
 ベースとなるセットアップ情報ファイルの設定値がリストの一番上の欄に表示されます。
- 4. [追加]をクリックする。



- 5. ペースとなるセットアップ情報ファイル から変更するパラメータを設定する。
- [OK]をクリックする。
 リストに追加した情報が表示されます。
- 7. ファイル名を選択し、[FD作成]をクリッ クする。

選択したファイル名のセットアップパラ メータFDを作成します。

詳細情報論定	×
セットアップ情報ファイル名	ОК ++`/わル
コンピュータ名	\\L7°
使用者	
プロダクトキー 	
 DHOPを使用する。 IPアドレス 	

Express本体用バンドルソフトウェア

本体にバンドルされているソフトウェアの紹介およびインストールの方法について簡単に説明します。詳 細はオンラインドキュメントをご覧ください。

ESMPRO/ServerAgent(Windows版)

ESMPRO/ServerAgent(Windows版)は、本装置にインストールする本体監視用アプリケーションです。

ここでは個別にインストールする場合に知っておいていただきたい注意事項とインストール の手順を説明します。



運用上の注意事項については、オンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgent (Windows版)インストレーションガイド」に記載しています。ご覧ください。

インストール前の準備

ESMPRO/ServerAgent (Windows版)を動作させるためには対象OSのTCP/IPとTCP/IP関 連コンポーネントのSNMPの設定が必要です。

ネットワークサービスの設定

プロトコルはTCP/IPを使用してください。TCP/IPの設定についてはスタートメニューから 起動するヘルプを参照してください。

SNMPサービスの設定

コミュニティ名に「public」、トラップ送信先に送信先IPアドレスを使います。ESMPRO/ ServerManager側の設定で受信するトラップのコミュニティをデフォルトの「public」から変 更した場合は、ESMPRO/ServerManager側で新しく設定したコミュニティ名と同じ名前を 入力します。

インストール

ESMPRO/ServerAgent (Windows版)のインス トールは添付のCD-ROM 「EXPRESSBUILDER」を 使用します。

本体上のWindows XP/2000が起動した後、 Autorunで表示されるメニューから[ESMPRO]ー [ESMPRO/ServerAgent]の順にクリックしてく ださい。以降はダイアログボックス中のメッセー ジに従ってインストールしてください。



■● アドミニストレータの権限を持ったアカウン
 ■●

トでシステムにログインしてください。

ネットワーク上のCD-ROMドライブから実行する場合は、ネットワークドライブの割り当て を行った後、そのドライブから起動してください。エクスプローラのネットワークコン ピュータからは起動しないでください。

[L'Jh]

アップデートインストールについて ESMPRO/ServerAgentがすでにインストールされている場合は、次のメッセージが表示さ れます。

ESMPRO/ServerAgentが既にインストールされています。

メッセージに従って処理してください。

インストール後の確認

ESMPRO/ServerAgent(Windows版)をインストールした後に次の手順で正しくインストールされていることを確認してください。

- 1. 本体を再起動する。
- **2.** イベントログを開く。
- 3. イベントログにESMPRO/ServerAgentの監視サービスに関するエラーが登録されていないこと を確認する。

エラーが登録されている場合は、正しくインストールされていません。もう一度はじめからイン ストールし直してください。

テープ監視ツール

テープ監視ツールは、本体に搭載したテープドライブならびに使用しているテープメディアの状態を監視するユーティリティです。

ヘッドの汚れや不良テープの使用などによるバックアップファイルの消失やバックアップの 失敗などを防止するために、テープドライブを搭載している装置にはこのユーティリティを インストールすることをお勧めします。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にテープ監視ツールがあらかじめインストールされている場合もあ ります。インストール済みのテープ監視ツールのサービスを次のように設定してください。 サービスの設定は[コントロールパネル]の[サービス]をダブルクリックすると起動します。

- 選択するサービス名: TapeAlertChecker
- スタートアップの種類: 自動
- ログオン: システムアカウント
 [デスクトップとの対話をサービスに許可]にチェック

サービスに[TapeAlertChecker]がない場合は、装置にインストールされていません。次の 「手動インストール(新規インストール)」を参照してインストールしてください。

手動インストール(新規インストール)

手動でインストールする場合は、以下の説明を参考にしてインストールしてください。詳し くはオンラインドキュメントの「テープ監視ツールセットアップガイド」をご覧ください。オ ンラインドキュメントは、添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」の次のディレクトリに PDFファイルで格納されています。

CD-ROMドライブ:¥TpTool¥SG_TP6.pdf

動作環境

ハードウェア

- インストールする装置
 Express5800/50、100、600シリーズ本体
- メモリ 500KB以上
- ハードディスクの空き容量 2.2MB以上

ソフトウェア

- オペレーティングシステム
 - Microsoft® Windows NT® 4.0日本語版(Service Pack 5以降)
 - Microsoft® Windows® 2000 日本語版

Microsoft® Windows® XPはサポートしていません。

- アプリケーション
 - ARCserve J6.0 for Windows NT (SP3)(全エディション)
 - ARCserve J6.5 for Windows NT(全エディション、Patch07が必要)
 - ARCservelT J6.61 for Windows NT(全エディション)
 - ARCserve 2000 (SP2)(全エディション)
 - BackupExec for Windows NT Ver.7.3
 - BackupExec for Windows NT Ver.8.5
 - NTBackup(Windows NT標準装備のパックアップツール)
 - #BKUP

監視対象装置

テープ監視ツールで監視できるテープドライブは次のとおりです(2002年9月現在)。

● 内蔵/外付AIT	N8151-28/-34/-34A/-41/-41A/-44/-46、 N8551-19/-28/-34、N8560-16
● 内蔵/外付AIT集合型	N8151-29/-36、N8551-20/-29/-36、 N8560-17
● 内蔵/外付DAT(DDS3)	N8151-12BC、N8551-12/-12A/-12BC、 N8560-12/-12AC
● 内蔵/外付DAT集合型(DDS3)	N8151-13AC、N8551-13/-13AC、 N8560-13/-13AC
● 内蔵TRAVAN	N8551-21
● 外付TRAVAN集合型	N8560-19
● 内蔵/外付DAT(DDS4)	N8151-26/-43/-45、N8551-26、N8560-22
● 内蔵/外付DAT集合型(DDS4)	N8151-27、N8551-27、N8560-23
● 内蔵SLOT	N8151-38
● 内蔵LTO	N8151-37/-40
● 外付LTO	N8160-39

対象ドライブとバックアップソフトの対応につきましてはNECのWeb情報ページにある 「NEC 8番街(http://nec8.com/)」の「技術サポート」-「技術情報(Express5800)」-「テクニカルガイド」-「Express5800/100シリーズテクニカルガイド」にあります。バック アップ装置<バックアップ装置対応ソフトウェア①WindowsNT/2000>を確認してください。

インストール手順

添付のCD-ROM 「EXPRESSBUILDER」の次のディレクトリにある「Setup.exe」をエクスプ ローラなどから起動してください。

CD-ROMドライブ:¥TpTool¥setup.exe

以降は画面に表示されるメッセージに従ってください。詳しくはオンラインドキュメントで 説明しています。

インストールの完了後、サービスが動作していることを確認してください。「カスタムイン ストールモデルでのセットアップ」の説明を参照してください。

監視についての詳細な設定は、iniファイルを編集することで変更できます。iniファイルは「C: ¥Program Files¥TapeAlertChecker¥Ctrl.ini」です(デフォルトの設定でインストールした場合)。設定の詳細についてはオンラインドキュメントをご覧ください。

エクスプレス通報サービス

エクスプレス通報サービスに登録することにより、システムに発生する障害情報(予防保守 情報含む)を電子メールやモデム経由で保守センターに自動通報することができます。 本サービスを使用することにより、システムの障害を事前に察知したり、障害発生時に迅速 に保守を行ったりすることができます。

また、お客様のワークステーション上で動作するエクスプレス通報サービスと、クライアント上で動作するシステム監視サービス(DMITOOL)を連携させることでシステムを安定に稼働させることができる、クライアント/サーバ型の保守サービス(PC通報連携機能)を提供しています。

インストール済みのエクスプレス通報サービスのセットアップ

購入時にインストール済みのエクスプレス通報サービスはまだ無効になっております。必要 な契約を行い、通報開局FDを入手してから、次の操作を行うとエクスプレス通報サービス は有効になります。エクスプレス通報サービス有効後はEXPRESSBUILDER内にあるオンラ インドキュメント「エクスプレス通報サービスインストレーションガイド」を参照して設定し てください。

セットアップに必要な契約

エクスプレス通報サービスを有効にするには、以下の契約等が必要となりますので、あらか じめ準備してください。

● 本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスの契約

本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスのみの契約がお済 みでないと、エクスプレス通報サービスはご利用できません。契約内容の詳細について は、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

● 通報開局FD

契約後送付される通報開局FDが必要となります。まだ到着していない場合、通報開局FD が到着してから、セットアップを行ってください。

エクスプレス通報サービスを有効にする操作

次の手順で購入時にインストール済みのエクスプレス通報サービスの機能を有効にします。

- 1. [コントロールパネル]の[ESMPRO/ServerAgent]を選択する。
- [全般]タブの[通報の設定]をクリックする。
 アラートマネージャ設定ツールが起動します。
- [ツール]メニューの[エクスプレス通報サービス]、[サーバ]を選択する。
 [エクスプレス通報サービスセットアップユーティリティ]が起動します。
- 4. 通報開局FDをフロッピーディスクドライブにセットし、通報開局FDを読み込む。 エクスプレス通報サービスが有効となります。

手動インストール(新規インストール)

手動でインストールする場合は、以下の説明を参考にしてインストールしてください。

エクスプレス通報サービスのセットアップ環境

エクスプレス通報サービスをセットアップするためには、以下の環境が必要です。

ハードウェア

- メモリ
 18.0MB以上
- ハードディスクの空き容量 30.0MB以上
- メールサーバ 電子メール経由の通報を使用する場合、SMTPをサポートしているメールサーバが必要 です。

ソフトウェア

- 添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」内のESMPRO/ServerAgent
- 上記、ESMPRO/ServerAgentがサポートするOS
- マネージャ経由の通報を使用する場合は、マネージャ側に以下の環境が必要です。
 ESMPRO/ServerManager* + ESMPRO/AlertManager Ver.3.4以降
 - * 監視対象となるサーバにインストールされているESMPRO/ServerAgentのバー ジョン以上を使用してください。
 - (例) 監視対象となるサーバにインストールされているESMPRO/ServerAgentの パージョン3.8の場合、パージョンが3.8以上のESMPRO/ServerManagerが 必要です。

セットアップに必要な契約

セットアップを行うには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してください。

● 本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスの契約

本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスのみの契約がお済 みでないと、エクスプレス通報サービスはご利用できません。契約内容の詳細について は、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

● 通報開局FD

契約後送付される通報開局FDが必要となります。まだ到着していない場合、通報開局FD が到着してから、セットアップを行ってください。

エクスプレス通報サービスのセットアップについては、「オンラインドキュメント」を参照してください。

PC通報連携機能

PC通報連携機能は、クライアントで発生した障害の情報を電子メールやモデム経由で保守 センターに自動通報するサービスです。このサービスを使用することにより、クライアント の障害を事前に察知したり、障害発生時、すみやかに保守することができます。

PC通報連携機能のセットアップについては、「オンラインドキュメント」を参照してください。

また、別途PC通報連携機能での契約が必要となります。お買い求めの販売店、または保守 サービス会社にお問い合わせください。

ESMPRO/UPSController Ver.2.1

BTO(ビルド・トゥ・オーダー)でインストールされるESMPRO/UPSController Ver.2.1に ついて説明します。



ビルド・トゥ・オーダーで指定されたバンドルソフトウェア、あるいはオーダーされたソフ トウェアです。なお、EXPRESSBUILDERには含まれていません。

インストール済みのESMPRO/UPSControllerのセットアップ

モデルによっては出荷時に「ESMPRO/UPSController」がインストール済みの場合がありま すが、設定値はデフォルト値のままになっている場合があります。 ここで示す手順に従ってお客様のご使用環境に合わせた状態にセットアップしてください。

ESMPRO/UPSControllerサービス(SPOC-I Service)の起動

[サービスコントロールマネージャ]を開き、[SPOC-I Service]を開始してください。 すでに、[SPOC-I Service]が開始されている場合はそのままでかまいません。[コントロー ルパネル]を閉じてください。

動作確認

SPOC-I Serviceが起動後、約1分以上経過してから次の方法で動作を確認します。 動作確認は、「確認1」、「確認2」の両方とも行ってください。「確認1」、「確認2」の両方が「正 常」な場合は、動作に問題ありません。この後の「設定変更」に示すの処理を行う必要はあり ません。

■ 確認1 イベントビューアによる確認

「イベントビューア」でESMPRO/UPSControllerが正常に起動していることを確認してく ださい。

- 1. [イベントビューア]を起動する。
- 2. [イベントビューア]のメニューバーから[ログ]を選択し、[システム]を選ぶ。
- 3. 上記により表示されたイベントの中から[ソース]名が[SPOC-I Service]のものを選ぶ。
- 4. イベントの[詳細]を表示し、以下のイベントの[説明]があることを確認する。
 - [正常] UPS通信開始
 - [異常] UPS通信エラー(無応答) このイベントが存在した場合、この後の「設定変更」を参照してESMPRO/ UPSControllerの設定を変更してください。

■確認2 ESMPRO/UPSControllerのGUIによる確認

「確認1」で「正常」を確認した後、GUIでUPSの情報が正しく表示されていることを確認してください。

 [スタート]メニューの[プログラム] - [ESMPRO_UPSController] - [UPSController マネージャ]を 起動する。

起動方法の詳細は、別冊のESMPRO/UPSControllerの「セットアップカード」を参照してください。

- 2. [UPSController マネージャ]のメイン画面(チャート)でUPSの情報が表示されていることを確認する。
 - [正常] UPS情報の「商用電源の値(V)」、「商用最大電圧の値(V)」、「商用最小電圧の値(V)」、 「負荷容量の値(%)」等が表示される。
 - [異常] UPS情報の「商用電源の値(V)」、「商用最大電圧の値(V)」、「商用最小電圧の値(V)」、「負荷容量の値(%)」等が表示されない。
 この後の「設定変更」を参照してESMPRO/UPSControllerの設定を変更してください。

設定変更

「動作確認」の「確認1」、または「確認2」で「異常」だった場合は、次の設定内容を確認して設定 を変更してください。

 [スタート]メニューの[プログラム]-[ESMPRO_UPSController]-[UPSController マネージャ]を 起動する。

起動方法の詳細は、別冊のESMPRO/UPSControllerの「セットアップカード」を参照してください。

2. [UPSController マネージャ]のメニューバーより、[設定] - [動作環境の設定]を選択し、下記の設定 画面を表示し、各設定内容を確認する。



- 3. 正しく設定した後、[UPSController マネージャ]のメニューバーより、[ファイル]ー[上書き保存]を 選択し、設定を保存する。
- 4. [コントロールパネル]の[サービス]を開き、[SPOC-I Service]を再起動する。
- 5. 前ページの動作確認をする。

新規インストール

ESMPRO/UPSController Ver2.1を新規にインストールする手順を説明します。

ESMPRO/UPSControllerのアンインストール

現在コンピュータにインストールされているESMPRO/UPSControllerをアンインストール してください。

ESMPRO/UPSControllerのアンインストールは、「ExpressServerStartup」のCD-ROMと 「ESMPRO/UPSController Ver.2.1(UL1047-401)」のKey-FD(キーディスク)を使ってアン インストールしてください。

ESMPRO/UPSControllerのアンインストールについての詳細は、別冊のESMPRO/ UPSControllerの「セットアップカード」を参照してください。

アンインストール後は、必ずコンピュータを再起動してください。

インストール

ESMPRO/UPSControllerのインストールは、「ExpressServerStartup」のCD-ROMと 「ESMPRO/UPSController Ver2.1(UL1047-401)」のKey-FD(キーディスク)を使ってイン ストールしてください。

ESMPRO/UPSControllerのインストールについての詳細は、別冊のESMPRO/ UPSControllerの「セットアップカード」を参照してください。

アップデートインストール

アップデートは次の手順に従ってください。

- 1. Administratorsローカルグループに所属するユーザーでログオンする。
- 2. 安全のために、必要最小限のアプリケーション(Serverサービスなど)を除くアプリケーションを 終了する。
- 3. 「スタートメニュー」-「設定」-「コントロールパネル」-「サービス」で次のサービスを停止する。
 - SPOC-I Service
 - ESMPRO/ARC Service
 - SNMP Service
- **4.** 「ExpressServerStartupJのCD-ROMをCD-ROMドライブに、「ESMPRO/UPSController Ver2.1(UL1047-401)JのKey-FD(キーディスク)をフロッピーディスクドライブにセットする。
- 5. 「ExpressServerStartup」CD-ROMの中にある「SETUP.EXE」を起動する。

ESMPRO/UPSControllerのアップデートが開始されます。

- 6. アップデート完了後、システムを再起動する。
- 7. 再起動後、ESMPRO/UPSControllerマネージャを起動し、ESMPRO/UPSControllerのパージョンを確認する。

ESMPRO/UPSController Version 2.1

以上でアップデートは終了です。

PowerChute plus Ver.5.11J/5.2J

BTO(ビルド・トゥ・オーダー)でインストールされるPowerChute *plus* Ver.5.11J/5.2Jに ついて説明します。



ビルド・トゥ・オーダーで指定されたバンドルソフトウェア、あるいはオーダーされたソフ トウェアです。なお、EXPRESSBUILDERには含まれていません。

インストール済みのPowerChute plusのセットアップ

モデルによっては出荷時に「PowerChute *plus*」がインストール済みの場合があります。ただし、PowerChute *plus*はデフォルト値の状態でインストールされています。 ここで示す手順に従ってお客様のご使用環境に合わせた状態にセットアップしてください。

PowerChute plusサービス(UPS-APC PowerChute plus Service)の起動

[コントロールパネル]の[サービス]を開き、[UPS-APC PowerChuteplus Service]を開始 してください。

すでに、[UPS-APC PowerChuteplus Service]が開始されている場合はそのままでかまい ません。[コントロールパネル]を閉じてください。

動作確認

UPS-APC PowerChute *plus* Serviceが起動後、約1分以上経過してから次の方法で動作を 確認します。

動作確認は、「確認1」、「確認2」の両方とも行ってください。「確認1」、「確認2」の両方が「正常」な場合は、動作に問題ありません。この後の「設定変更」に示す処理を行う必要はありません。

■ 確認1 イベントビューアによる確認

「イベントビューア」でPowerChute *plus*が正常に起動していることを確認してください。

- 1. [イベントビューア]を起動する。
- 2. [イベントビューア]のメニューバーから[ログ]を選択し、[システム]を選ぶ。
- 3. 上記により表示されたイベントの中から[ソース]名が「UPS」のものを選ぶ。
- 4. イベントの[詳細]を表示し、以下のイベントの[説明]があることを確認する。
 - [正常] UPSとの通信が確立しました。
 - [異常] UPSとの通信が確立できません。
 - このイベントが存在した場合、この後の「設定変更」を参照してPowerChute *plus*の設 定を変更してください。

■ 確認2 PowerChute plusのGUIによる確認

「確認1」で「正常」を確認した後、GUIでUPSの情報が正しく表示されていることを確認してください。

- [スタート]メニューの[プログラム] [PowerChutePLUS] [PowerChutePLUS]を起動する。
 起動方法の詳細はPowerChute *plus*の「インストールガイド」を参照してください。
- 2. [PowerChutePLUS]のメイン画面(チャート)でUPSの情報が表示されていることを確認する。
 - [正常] データフィールドエリアの「UPS出力」、「最小電圧」、「最大電圧」、「UPS温度」、「出力 周波数」などが表示される。
 - [異常] UPS情報の「UPS出力」、「最小電圧」、「最大電圧」、「UPS温度」、「出力周波数」などが グレーアウトで表示されている。 この後の「設定変更」を参照してPowerChute *plus*の設定を変更してください。

設定変更

「動作確認」の「確認1」、または「確認2」で「異常」だった場合は、次の設定内容を確認して設定 を変更してください。

1. [スタート]メニューの[プログラム]-[PowerChuteplus]-[PowerChuteplus]を起動する。

起動方法の詳細は、PowerChute *plusの*「オンラインヘルプ」、またはPowerChute *plus*に添付の「ユーザーズガイド」を参照してください。

2. [PowerChuteplus]のメニューバーより、[構成]-[通信パラメータ]を選択し、下記の設定画面 を表示し、各設定内容を確認する。

	通信バラメータ		×]
通信シグナルが[スマー トシグナリング]である ことを確認する。	-UPS パラメ-タ c シンプル、シク*ナリンク*	通信ポー		ー コン を1
	で XX + 77 7 7 577 - tデム パラメーター	27/210	$\boldsymbol{\succ}$	
	0 N°NZ	週1言不一个	COM3	
	● トーン	モデム初期化文字列		
		ホート	2400 💌	
	-SMTP X-IL			
	SMTP サーバ 名			
	SMTP アカウント名			
	SMTP ドンイン名			
	OK	++>tul		

コンピュータとUPSの通信 を行うCOMポート番号を正 しく設定する。

- 3. 正しく設定した後、[OK]をクリックし、「PowerChuteplus」のメニューバーより、[システム]-[別のサーバを監視]を選択し、再度監視するサーバを選択する。
- 4. 前ページの動作確認をする。

新規インストール

PowerChute *plus*の新規インストール(再インストール)については、PowerChute *plus*に 添付の「インストールガイド」を参照してください。

管理PC用バンドルソフトウェア

本体をネットワーク上から管理するための「管理PC」にインストールするバンドルソフトウェアとして 「ESMPRO/ServerManager」がEXPRESSBUILDERの中に入っています。

ESMPRO/ServerAgentがインストールされたコンピュータをネットワーク上の管理PCから監視・管理 するには、本装置にバンドルされているESMPRO/ServerManagerをお使いください。

管理PCへのインストール方法や設定の詳細についてはオンラインドキュメント、またはESMPROのオン ラインヘルプをご覧ください。



運用上の注意事項については、オンラインドキュメント「ESMPRO/ServerManagerインストレーション ガイド」に記載しています。ご覧ください。

ディスクアレイソフトウェア

本装置はオプションで次のRAIDコントローラをサポートしています。

- ディスクアレイコントローラ(SCSI)
- ディスクミラーリングコントローラ(IDE)

ここでは、オプションのRAIDコントローラおよびRAIDコントローラに接続したハードディスクの運用・ 管理・保守をするソフトウェアについて説明します。

RAIDアレイコントローラおよびこれらのソフトウェアはビルド・トゥ・オーダーによって購入時に本体に 組み込まれている場合もあります。

- ディスクアレイコントローラ(SCSI)用
 - Global Array Manager Server/Cilent
 - 自動クリーンアップツール
 - Array Recovery Tool
- ディスクミラーリングコントローラ(IDE)用
 - FastCheck
 - ★ ディスクアレイを構築するためのツールは、各ボードに格納されたユーティリティを使用し 重要 ます。詳しくは、ボードに添付の説明書を参照してください。
 - ディスクアレイコントローラ(SCSI)用: RAID EzAssist
 - ディスクアレイコントローラ(IDE)用: FastBuild

Global Array Manager Server

Global Array Manager (GAM) Serverは本装置がサポートするSCSIタイプのディスクアレ イを構築しているマシンの監視・管理用のアプリケーションです。 GAM Serverの動作環境については、EXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント 「Global Array Manager Serverインストレーションガイド」を参照してください。GAMの 操作方法については、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」内にあるオンラインドキュメント 「Global Array Managerオペレーションガイド」を参照してください。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にGAM Serverがあらかじめインストールされている場合もありま す。インストール済みのGAM Serverの管理者用アカウントである「gamroot」は作成してい ますが、パスワードを設定していません。このままでも使用できますが、セキュリティ保持 の観点からパスワードを設定されることをお勧めします。

購入時にインストール済みのGAM Serverの設定内容についてはCD-ROM 「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「Global Array Manager Serverインス トレーションガイド」に記載しています。

シームレスセットアップを使ったセットアップ

GAM Serverは添付のCD-ROM[EXPRESSBUILDER]に収められている自動インストール ツール[シームレスセットアップ]を使ってインストールできます。

シームレスセットアップ中にアプリケーションを設定するダイアログボックスが表示されま す。ここで「Global Array Manager」を選択してください。「手動インストール(新規インス トール)」の「GAM Serverをインストールする前に」で記載した内容を満足するようにシーム レスセットアップ中のセットアップ情報を設定してください(DACドライバやGAMドライバ はMylexディスクアレイコントローラが接続されたマシンのシームレスセットアップで自動 的に組み込まれます)。

シームレスセットアップ後に設定をしなければならない項目は特にありません。 ただし、GAM ClientからGAM Serverを制御するために「adminstrator」権限を持つユーザー 「gamroot」が必要です。シームレスセットアップではこの「gamroot」を作成します。シーム レスセットアップでGAMをインストールするときはシームレセットアップの設定時に 「gamroot」のパスワードを設定することをお勧めします。

パスワードを設定しないとセキュリティ上の問題が発生する可能性があります。

手動インストール(新規インストール)

手動でインストールする場合は、以下の説明を参考にしてインストールしてください。 インストールに関する詳しい手順については、CD-ROMFEXPRESSBUILDER」内にあるオ ンラインドキュメント「Global Array Manager Serverインストレーションガイド」を参照し てください。また、GAMの操作方法については、CD-ROMFEXPRESSBUILDER」内にある オンラインドキュメント「Global Array Managerオペレーションガイド」を参照してくださ い。

GAM Serverをインストールする前に

GAM Serverをインストールするときは、次に示す準備をしておく必要があります。

- DACドライバが組み込み済みであること
- TCP/IPの設定が終了していること
- システムのアップデートが終了していること 18ページを参照してください。
- SNMPサービスの設定が終了していること
 ESMPROと連携する場合GAM Serverのインストールに先立って設定を終了させておく
 必要があります。

GAM Serverのインストール手順

GAM Serverのインストールは添付の 「EXPRESSBUILDER」と書かれたCD-ROMを 使用します。

EXPRESSBUILDERをCD-ROMドライブに セット後、Autorunで表示されるメニューか ら[ソフトウェアのセットアップ]ー [ESMPRO]ー [関連ユーティリティメ ニュー]ー[Global Array Manager]の順にク リックします。ここで表示される[セットアッ プオプションの選択]ダイアログボックスの [GAM Serverインストール]をチェックし、 [次へ]をクリックしてください。以降はダイ アログボックス中のメッセージに従ってイン ストールしてください(各ダイアログボックス での推奨する操作をヒントに示しています)。



- アドミニストレータの権限を持っ たアカウントでシステムにログイ ンしてください。
- GAM Serverのインストール後は 必ずシステムを再起動してください。





[セットアップの完了]ダイアログボックスの[Global Array Manager[x.xx]の環境設定を行 ないます]はチェックしてください。

なお、Windows XP/2000上にインストールする場合、CD-ROM [EXPRESSBUILDER]の [¥ESMPRO¥JP¥I386¥GAM2¥ACPIDRV¥GAMACPI.BAT]を起動して、システムの休 止状態やスタン バイ状態への移行を抑止するドライバをインストールしてください。

GAM Serverの環境設定

● GAMの管理者用アカウントgamrootの登録

GAMを使用する場合、GAMの管理者用のアカウントであるgamroot(すべて小文字)というユーザーが必要です。ユーザーマネージャで登録してください。gamrootが所属する グループにはAdministrators(ドメインサーバの場合はDomain Admins)を追加してくだ さい。



カスタムインストールモデルなどでGAM Serverをインストールして出荷している装 置については、gamrootユーザは登録済みです。ただし、パスワードを設定していま せん。セキュリティ保持の観点から必ず、パスワードを設定するようにしてください。

● GAM Serverの環境設定ファイルの修正

[セットアップの完了]ダイアログボックスの[Global Array Manager[x.xx]の環境設定を 行ないます]をチェックした場合、この作業は不要です。なお、修正する場合はオンライ ンドキュメント[Global Array Manager Serverインストレーションガイド]を参照して ください。

Global Array Manager Client

Global Array Manager (GAM) Clientは、GAM Serverと連携してMylexディスクアレイシ ステムを監視し、グラフィカルな画面で簡単に管理や操作をすることができます。 GAM Clientの動作環境については、EXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント 「Global Array Manager Client インストレーションガイド」を参照してください。GAMの 操作方法については、CD-ROM[EXPRESSBUILDER]内にあるオンラインドキュメント 「Global Array Managerオペレーションガイド」を参照してください。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にGAM Clientがあらかじめインストールされている場合もありま す。GAM Clientがインストール済みの本体に後からESMPRO/ServerManagerをインス トールした場合は、環境設定をし直してください。環境設定については後述のGAM Client の環境設定やCD-ROM[EXPRESSBUILDER]内にあるオンラインドキュメント[Global Array Manager Clientインストレーションガイド]に記載しています。

購入時、本体にインストール済みのGAM Serverの設定内容についてはCD-ROM 「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「Global Array Manager Clientインス トレーションガイド」に記載しています。

シームレスセットアップを使ったセットアップ

GAM Clientは添付のCD-ROMFEXPRESSBUILDER」に収められている自動インストール ツール「シームレスセットアップ」を使ってインストールできます。

シームレスセットアップ中にアプリケーションを設定するダイアログボックスが表示されま す。ここで「Global Array Manager」を選択してください。なお、シームレスセットアップ でTCP/IPの設定をするようにセットアップ情報を設定してください。

シームレスセットアップでGAM Clientをインストールした場合で、後からESMPRO/ ServerManagerをインストールした場合は、環境設定をし直してください。環境設定につい ては後述のGAM Clientの環境設定やEXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント 「Global Array Manager Clientインストレーションガイド」を参照してください。

手動インストール(新規インストール)

手動でインストールする場合は、以下の説明を参考にしてインストールしてください。 インストールに関する詳しい手順については、EXPRESSBUILDER内にあるオンラインド キュメント「Global Array Manager Clientインストレーションガイド」を参照してください。 また、GAMの操作方法については、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」内にあるオンラインド キュメント「Global Array Managerオペレーションガイド」を参照してください。

GAM Clientをインストールする前に

GAM Clientをインストールするときは、次の準備が必要です。

- WindowsのTCP/IPの設定が終了していること
- ESMPRO/ServerAgentのインストールが完了していること(ESMPROとの連携を行う 場合のみ)。
- マウスまたはその他のポインティングデバイスが使えること

GAM Clientのインストール手順

GAM Clientのインストールは添付のCD-ROM [EXPRESSBUILDER」を使用します。 EXPRESSBUILDERをCD-ROMドライブにセッ ト後、Autorunで表示されるメニューから[ソフ トウェアのセットアップ]-[ESMPRO]-[関連 ユーティリティメニュー]-[Global Array Manager]の順にクリックします。ここで表示 される[セットアップオプションの選択]ダイア ログボックスの[GAM Clientインストール]を チェックし、[次へ]をクリックし、以降はダイ アログボックス中のメッセージに従ってインス トールしてください(各ダイアログボックスでの 推奨する操作をヒントに示しています)。





システムにインストールする場合、インストール時はAdministratorsグループでログオン してください。



- [セットアップの完了]ダイアログボックスの[Global Array Manager[x.xx]の環境設定を 行ないます]はチェックしてください。
- EXPRESSBUILDERのメニューから選択してGAM Clientをインストールする場合はインストール先のシステムの状況によってインストールされるGAM Clientのバージョンが異なります。インストールされるGAM Clientのバージョンについては「Global Array Manager Clientインストレーションガイド」を参照してください。

特定のバージョンのGAM Clientをインストールする場合も「Global Array Manager Clientインストレーションガイド」を参照してください。EXPRESSBUILDER内にオン ラインドキュメントとして格納されています。

 GAM ClientとGAM Serverのバージョン組み合わせによって有効な場合と無効な場合が あります。このため1つのマシンに複数のGAM Clientをインストールし使い分ける必要 があります。詳しくはEXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメントを参照して ください。

GAM Clientの環境設定

GAM Clientをインストールしたら、ここで説明する手順に従って環境設定をします。

ESMPROとの連携のための環境設定

GAM Clientは、ESMPROと連携させることで、ESMPROの統合ビューアのメニューから GAM Clientを起動できるようになります。



- GAM Clientのインストール時に環境設定を行わなかったとき
 - GAM Cientの後にESMPRO/Server Managerをインストールしたとき

GAM ClientとESMPROを連携させるための環境設定は「コンフィグウィザード」を使いま す。「コンフィグウィザード」はGlobal Array Managerの環境設定を行うためのプログラム であり、起動するとESMPROと連携するための環境設定を自動的に行います。「コンフィグ ウィザード」は、GAM Clientのインストール先のディレクトリにある「configwz.exe」を起動 することで動作します。

<u>ショートカットの作成について<Windows NT4.0、Windows95/98のみ></u>

通常は、プログラムメニューからGAM Clientを起動してください。 新たにGAM Clientのショートカットを作成するときは、プログラムメニューにあるショー トカットをコピーしてください。

エクスプローラなどからGAM Clientのショートカットを作成したときは、ショートカット のプロパティを以下のように修正してご使用ください。

リンク先の内容

<1>xh-lnn°x>¥winact.exe /file=<1>xh-lnn°x>¥gam2cl.act

例)

(変更前)"C:\Program Files\Mylex\GAM Client\GAM2CL.EXE"

(変更後)"C:¥Program Files¥Mylex¥GAM Client¥winact.exe" /file=C:¥Program Files ¥Mylex¥GAM Client¥gam2cl.act

アイコンのファイル名

```
<1ンストールパス>¥gam2cl.ico
```

例)

(変更前)"C:\Program Files\Mylex\GAM Client\GAM2CL.EXE"

(変更後)"C:\Program Files\Mylex\GAM Client\gam2cl.ico"

自動クリーンアップツール

自動クリーンアップツールは本装置がサポートするSCSIタイプのディスクアレイの整合性 をチェックし、検出した不整合を修復するアプリケーションです。 自動クリーンアップツールの動作環境や使用方法については、EXPRESSBUILDER内にある オンラインドキュメント「自動クリーンアップツールインストレーションガイド」を参照して ください。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時に自動クリーンアップツールがあらかじめインストールされている 場合もあります。インストール済みの自動クリーンアップツールは、スケジュールの設定が されていません。スケジュール設定については、後述の自動クリーンアップツールの環境設 定やEXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「自動クリーンアップツールイン ストレーションガイド」を参照し、設定してください。

購入時にインストール済みの自動クリーンアップツールの設定内容についてはCD-ROM 「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「自動クリーンアップツールインスト レーションガイド」に記載しています。

シームレスセットアップを使ったセットアップ

自動クリーンアップツールは添付のCD-ROMFEXPRESSBUILDER」に収められている自動 インストールツール「シームレスセットアップ」を使ってインストールできます(DACドライ パやGAMドライバはMylexディスクアレイコントローラが接続されたマシンのシームレス セットアップで自動的に組み込まれます)。

シームレスセットアップ中にアプリケーションを設定するダイアログボックスが表示されます。ここで「自動クリーンアップツール」を選択してください。なお、「手動インストール(新 規インストール)」の「自動クリーンアップツールをインストールする前に」で記載した内容を 満足するようにシームレスセットアップ中のセットアップ情報を設定してください。

シームレスセットアップはスケジュール設定までは行っていません。スケジュール設定については後述の自動クリーンアップツールの環境設定やEXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「自動クリーンアップツールインストレーションガイド」を参照し、設定してください。

手動インストール(新規インストール)

手動でインストールする場合は、以下の説明を参考にしてインストールしてください。 インストールや操作に関する詳しい手順については、CD-ROMFEXPRESSBUILDER」内に あるオンラインドキュメント「自動クリーンアップツールインストレーションガイド」を参照 してください。

自動クリーンアップツールをインストールする前に

自動クリーンアップツールをインストールするときは、次に示す準備をしておく必要があります。

- DACドライバが組み込み済みであること
- GAM Serverが組み込み済みであること
- システムのアップデートが終了していること 18ページを参照してください。

自動クリーンアップツールのインストール手順

自動クリーンアップツールのインストールは添 付CD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使用しま す。EXPRESSBUILDERをCD-ROMドライブ にセット後、Autorunで表示されるメニューか ら[ソフトウェアのセットアップ]ー[自動ク リーンアップツール]をクリックします(または ダイアログボックス上で右クリックすると表示 されるポップアップメニューから選択しま す)。以降はダイアログボックス中のメッセー ジに従ってインストールしてください。



■ アドミニストレータの権限を持ったアカウントでシステムにログインしてください。

自動クリーンアップツールの環境設定

自動クリーンアップツールのスケジュール起動はATコマンドのスケジュール機能を利用します。この場合、scheduleサービスが実行中でなければなりません。 scheduleサービスの起動はコントロールパネルの[サービス]をダブルクリックして表示される[サービス]ダイアログボックスで行います。



- サービスの設定はAdministratorsローカルグループのメンバであるユーザアカウントで ログオンする必要があります。
 - scheduleサービスのスタートアップは「自動」に設定しておくことをお勧めします。

Array Recovery Tool

Array Recovery Toolは、本装置がサポートするSCSIタイプのディスクアレイコントローラに接続されているハードディスクの状態を監視し、不良ハードディスク(DEAD状態)を検出すると自動的にリビルド、整合性チェックを行い、システムドライブを復旧します。

Array Recovery Toolのインストールは、添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使用します。インス トール終了後に特別な設定などをする必要はありません。

Array Recovery Toolのインストールや動作環境の設 定についてはEXPRESSBUILDER内のオンラインド キュメントを参照してください。

EXPRESSE	BUILDER
Express5800	Series
Master Co	ontrol Menu
	O HT

FastCheck

FastCheckは、本装置がサポートするIDEタイプのオプションのディスクミラーリングボードを管理・監視するソフトウェアです。

ディスクミラーリングコントローラに接続したハードディスク(アレイディスク)の監視や状態の表示をしたり、万一、異常が起きたときにビープ音やポップアップメッセージの表示な どで通知したりします。

また、ESMPRO/ServerAgent(Ver.3.4以降)との連携により、異常が起きたときに ESMPRO/ServerManagerをインストールしている管理PCにアラート通報やALIVE通報を することもできます。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にFastCheckがあらかじめインストールされている場合もあります。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にFastCheckがあらかじめインストールされている場合もあります。FastCheckがインストール済みの本体に後からESMPRO/ServerAgentをインストールした場合は、FastCheckを一度、アンインストールしてからインストールし直してください。

シームレスセットアップを使ったセットアップ

FastCheckは添付のCD-ROM[EXPRESSBUILDER]に収められている自動インストール ツール[シームレスセットアップ]を使ってインストールできます。

シームレスセットアップ中にアプリケーションを設定するダイアログボックスが表示されます。ここで「FastCheck」を選択してください。

シームレスセットアップでFastCheckをインストールした場合で、後からESMPRO/ ServerAgentをインストールした場合は、FastCheckを一度、アンインストールしてからイ ンストールし直してください。

確認事項

インストール済みのFastCheckについて次の点を確認してください。

- [スタート]メニューの[プログラム]に[Promise]という名前のフォルダが作成されてい ることを確認する。
- Windows XP/2000の起動後のタスクトレーに、FastCheckのアイコン()が表示 されていることを確認する(FastCheckはWindows XP/2000常駐型のアプリケーショ ンです)。
- コントロールパネルのサービスで「Promise FastTrak Service」が開始されていることを 確認する。

● FastCheckが起動することを確認する。

[Promise]フォルダの中から[Fasttrak]-[FastCheck Monitoring Utility]の順に選択するか、タスクトレーのFastCheckアイコン(📄)をダブルクリックすると起動します。

● FastCheckを起動後、[オプション]-[通知]-[NTシステムイベントログの使用]が チェックされていること(デフォルト値です)を確認する。



ESMPRO/ServerManagerをインストールした管理PCにディスクミラーリングコン トローラに関するアラート通報やALIVE通報をする場合は、「Promise Fast Trak Log Service」が開始されており、FastCheckのオプション設定[NTシステムイベン トログの使用]がチェックされていなければなりません。

パスワードの設定

セキュリティ上、FastCheckを起動する際にパスワードによる確認ができるよう、パスワードを登録してください。パスワードはFastCheckを起動後、[オプション]-[パスワードを使用可能にする]を選択すると表示される設定画面で設定できます。

運用上の注意

FastCheckをインストールして運用する上で特に注意していただきたい点について説明しま す。FastCheckで表示される画面についての説明やその他の注意事項については、オンライ ンドキュメント「FastCheckユーザーズガイド」を参照してください。

ESMPRO/ServerAgentがインストールされている本体にFastCheckをインストールすることをお勧めします。ESMPROと連携したさまざまな管理・監視機能を利用することができます(ESMPROがインストールされていなくても、FastCheckの動作には支障がありません)。

ただし、ESMPROはVer.3.4以降のパージョンを使用してください。

- FastCheckの設定を変更した場合は、ダイアログボックス内にある[適用]を クリックして情報を更新してから終了してください。
- FastCheckの以下のオプションは規定値から変更しないでください。
 - [NT システムイベントログの使用] (規定値: チェック)
 - [書き込みキャッシュを使用可能にする] (規定値: チェック)
 - [ホットスペア/自動リビルドを禁じる] (規定値: チェックなし)
- ディスクのリビルドやシンクロナイズ(整合性の確認)の間もアクセスすることはできますが、処理時間が長くなる場合があります。
- ESMPROからは、ディスクミラーリングコントローラで制御されているハードディスクは、1台のドライブとして認識されます。また、このディスクミラーリングコントローラはディスクアレイではなく、「SCSIコントローラ」として管理されます。

新規インストール

FastCheckを新規にインストールする場合(または再インストールする場合)は、オンラインドキュメント「FastCheckユーザーズガイド」を参照してください。